

Y11b 西はりま天文台での高校生・大学生の天文実習

高木悠平、伊藤洋一、石田俊人、高橋隼、本田敏志、森鼻久美子（兵庫県立大学西はりま天文台）、新井彰（京都産業大学）

兵庫県立大学西はりま天文台では、年間を通じて多くの高校生や大学生が来台し、天文観測などの実習が行われている。また、2002年より文部科学省が開始したスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 制度により、高校教育中に最先端の科学技術に触れる機会が増え、西はりま天文台でも SSH 指定校の実習を目的とした利用者が増加している。

西はりま天文台は2012年より兵庫県立大学に移管された。これまでの公開天文台としての事業を展開しながら、大学付属天文台として研究観測にも注力している。そのため、西はりま天文台は公開天文台と大学天文台の2つの側面を持ち、観測天文学の最新の成果を伝えつつ観測を体験することができるという、天文観測実習により適した環境になっている。

これまでの西はりま天文台での観測実習は、利用者の要望に応えるという形で行われてきた。より多くの利用者に天文学の魅力を感じてもらうことを目標に据え、2014年度より高校生と大学生を対象とした実習の受け入れ体制を整備した。2014年の夏休み期間中には計18校が実習に参加し、整備前と比較すると、天文に関する実習を実施した学校数は倍増した。本公演では、整備した実習メニューの紹介と、初年度の運用成果および今後の検討課題を報告する。